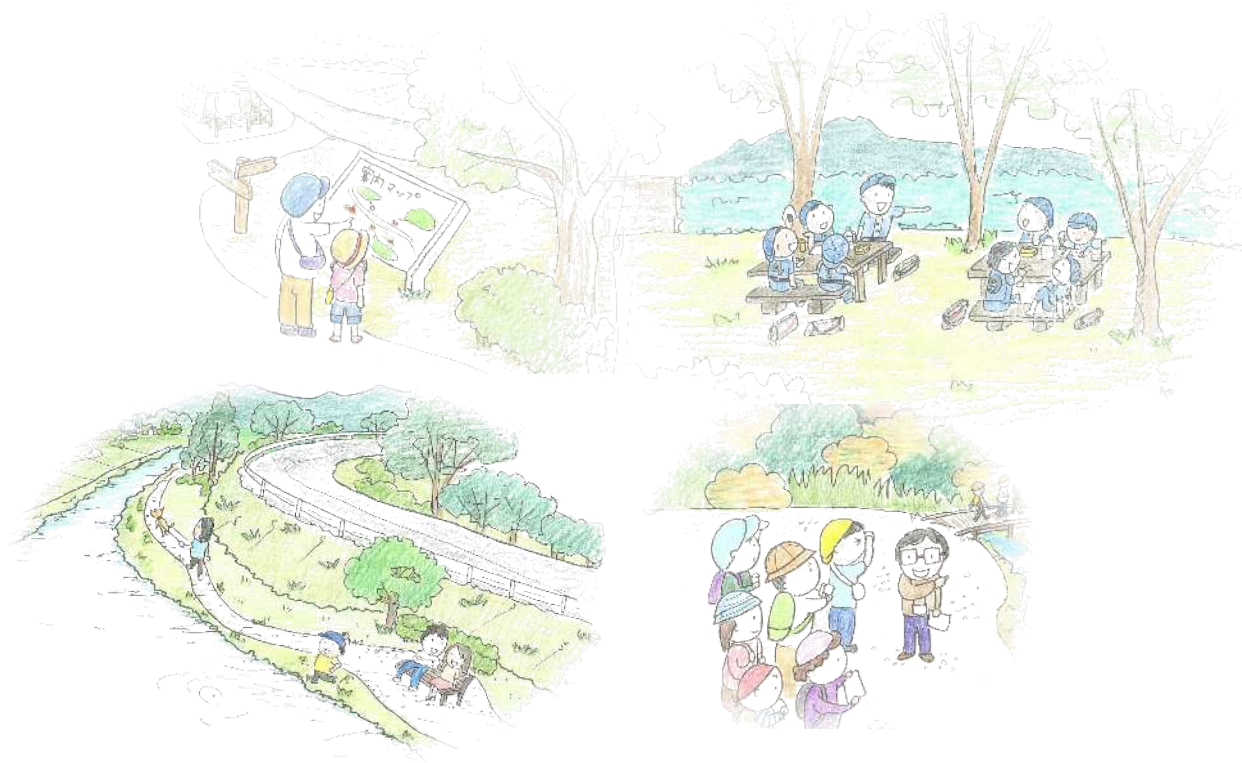


安曇野市環境行動計画重点プロジェクト

歩いて楽しいまちづくり プロジェクト



平成 25 年 3 月

安 曇 野 市



プロジェクト策定の背景

北アルプスの雄大な山並みを背景に広がる水田や緑豊かな集落。おいしい水、きれいな空気、冷涼な気候。このような安曇野の良好な自然環境、美しい景観は、内外に誇れるものであり、安曇野市の魅力を高めている大切な要素です。

「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト」の原点は、これらを守るためになすべきことを定めた「安曇野市環境基本計画」（平成 20 年 3 月策定）にあります。

「歩いて楽しいまちづくり」は、安曇野市環境基本計画実現のための「安曇野市環境行動計画」（平成 22 年 3 月策定）にまとめた重点プロジェクトである「市民参加による公園再生の仕組みづくり」、「水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり」を具体的に進めていくための概念を示したことです。

水景観と歴史・文化遺産が各所にみられる安曇野をひとつのフィールドとしてとらえ、ここを舞台にして市民が歩いて地域のよさを再認識し、市民主体でよさを楽しみながらつなぎ、活かしていくまちづくりをイメージしています。

本書では、このようなまちづくりが、できるだけ市内の広い範囲で進むことを長期の将来像としてもちながら、当面 5 年間進めていくための考え方や手法、しくみづくりのあり方などをまとめました。

なお、本書は、平成 22 年度～24 年度にかけて、作成を進めてきました。

安曇野市環境基本計画推進会議委員の景観まちづくりワーキンググループのみなさん、様々なまちづくりの活動に関わられている団体や市民の方々、行政が同じテーブルについて、議論を深めてきた成果です。

平成 22 年度には、このプロジェクトに関連する資料や考え方をフィールドミュージアム構想（本書 4 ページ参照）として整理し、平成 23 年度には、その考え方を踏まえながら、本プロジェクトの内容の具体化を進めました。

平成 24 年度には、実現性を高めるため、市内の参考例となる地域の現地踏査や実例に沿ったケーススタディなども行いながら検討し、本書のとりまとめに至っています。



目 次

第1章	プロジェクトの目的・位置付け	1
1	目的	1
2	位置付け	1
3	対象範囲・期間	1
第2章	現状の認識と課題	2
1	各所に散在するいいところ	2
2	今後に向けた課題と新たな考え方	4
第3章	目指すところ	6
1	目指すところ	6
2	対象とする環境・テーマ	8
第4章	取り組みの内容	10
1	取り組みの内容・5本柱	10
2	取り組みの段階的進め方のイメージ	12
3	5年間の目標と将来イメージ	14
第5章	取り組みを推進する体制・しくみ	15
1	「協働」による取り組みの推進	15
2	役割分担と5年間の進め方	16
3	推進体制	18
資 料	取り組み内容 アイディア集	

第1章 プロジェクトの目的・位置付け

1 目的

安曇野市では、平成20年3月に「安曇野市環境基本計画」（以下「基本計画」という。）が、その実行計画として平成22年3月には「安曇野市環境行動計画」（以下「行動計画」という。）がそれぞれ策定されています。

歩いて楽しいまちづくりプロジェクト（以下「本プロジェクト」という。）は、行動計画の重点プロジェクト⑤「市民参加による公園再生の仕組みづくり」⑥「水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり」を具体的に進めるための考え方や、進め方を定めることを目的としています。

2 位置付け

本プロジェクトは、基本計画と行動計画を、水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくりの視点からの実施を支えるものとして位置付けられます。

安曇野市が策定する各種計画及び実施する事業等との整合・連携を図ります。

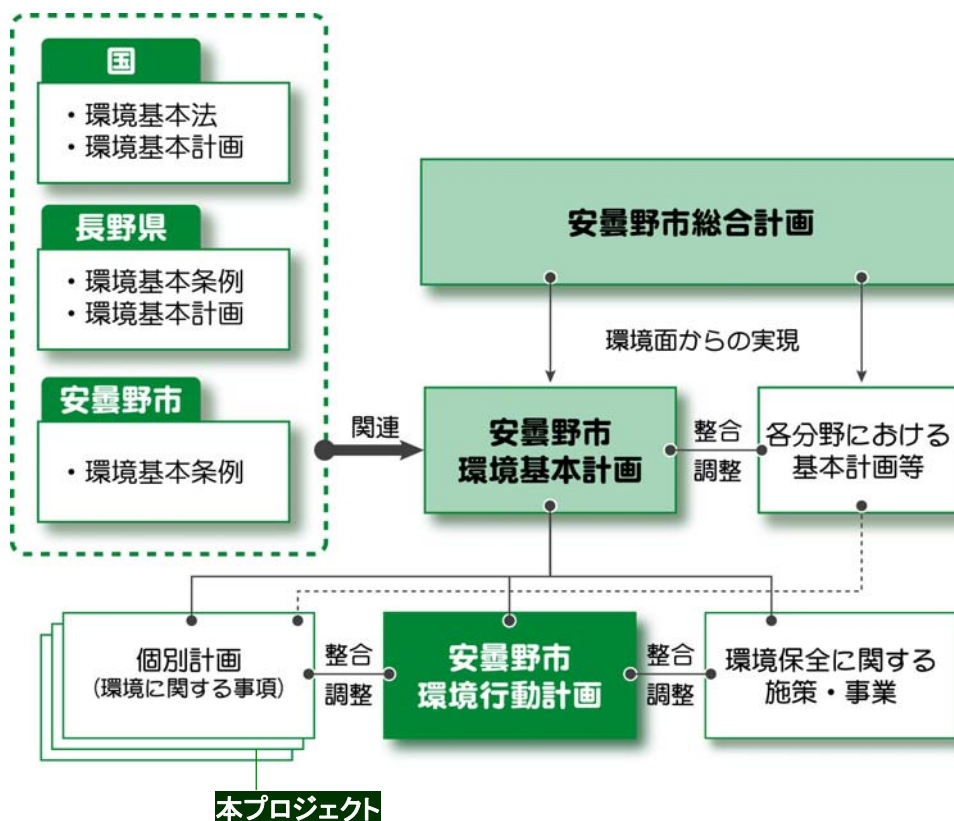


図 本プロジェクトと環境基本計画及び関連計画・事業との関係

3 対象範囲・期間

本プロジェクトは、安曇野市全域を対象とし、平成25年度～29年度までの5年間（環境基本計画の計画期間）を対象期間とします。

第2章 現状の認識と課題

1 市内に散在する「いいところ」の現状

安曇野の良好な環境、美しい景観といわれる、いわゆる「いいところ」は市内にみられます。その成り立ち、変化と現在の暮らしとの関係について整理します。

■ 安曇野の歴史や文化から離れていくライフスタイルのなかで

■ スピードと効率が重視される生活のなかで残されてきた「いいところ」

「いいところ」といわれる場を構成する一つひとつの要素（たとえば、古い集落、屋敷林、田園等）の多くは、自動車の少ない、ゆったりとした時間の流れのなかでの生活様式に根付いてうまれてきたものといえます。

しかし、現在は自動車主体のライフスタイルが主流であり、これを受け継いでいくしくみが必ずしも定着しているとはいえません。

■ 「いいところ」を生んだ昔の安曇野を受け継いでいくために

安曇野に暮らす人は、昭和 15 年当時は約 6 万人、現在は約 10 万人です。

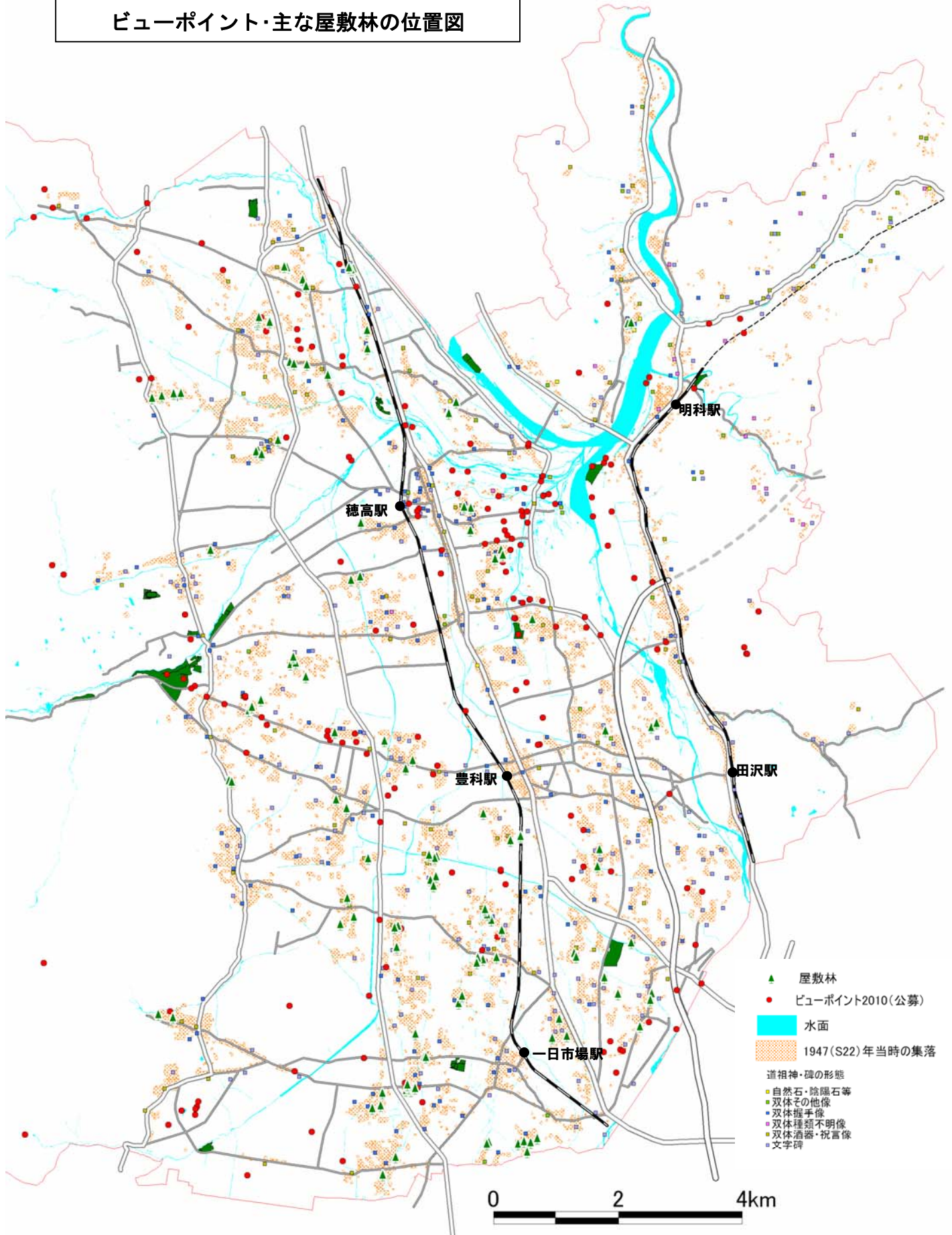
ここ 70 年で、4 万人近く人口が増えています。

人口が増加する中で「いいところ」を多くの人が再認識、発見し、後世に伝えていく必要性が高まっています。





ビューポイント・主な屋敷林の位置図





2 今後に向けた課題と新たな考え方

■ いいところがあちこち だからこそその課題

「いいところ」が点状にあちこちで見られることは、安曇野の特徴でもあります。その反面、散らばる範囲が広いため、次のような課題も生まれています。

- < 「いいところ」を守り活かしていくうえでの課題 >
- ・多くの点の魅力を線としてつなぐ方策がとりにくい（とくに交通面）
 - ・様々な主体の個別の取り組み連携のためのしくみが十分でない
 - ・地域のよさを知るためのきっかけを生み出すことが重要
 - ・いいところを保全するための活動を地域活性化などにつなげる工夫が不十分

一方で、「いいところ」をつなぐための様々な散策のルートが近年数多く見出されてきています（次のページ）。このような各所で類似する取り組みを、相互連携によって、より効果を生むスタイルに改めていくことが重要です。

さらに、地域の活性化にもつなげていくには、大きなひとつの目標や考え方のもとで、それぞれにある特色を有機的につなぐ必要があると考えられます。

■ 新しいまちづくりの考え方

「いいところ」の成り立ちをみつめなおすと、これを支えているのは紛れもなく市民の日々の暮らしです。また、そのなかには先人たちが暮らすために水、緑を活かして育ててきた歴史や文化が刻み込まれています。

この観点から、安曇野一帯は、「いいところ」の背景にある歴史や文化をも伝える広大なフィールドといえます。今後は、このフィールド内で「いいところ」をより多くの市民が知って、現代流に暮らしの中へ根付かせていくことにつながる、新しいまちづくりの取り組みが必要です。

その姿は、ひとつの広大な野外博物館的な空間「フィールドミュージアム」と考えられます（※）。

時代の流れとともに生活のスタイルも変わり、歴史や文化も含め「いいところ」の継承はますます難しくなっています。単に古いものを守るような博物館ではなく、現代流にアレンジして楽しめる空間にしていくことが重要です。



（フィールドミュージアムと博物館の比較）

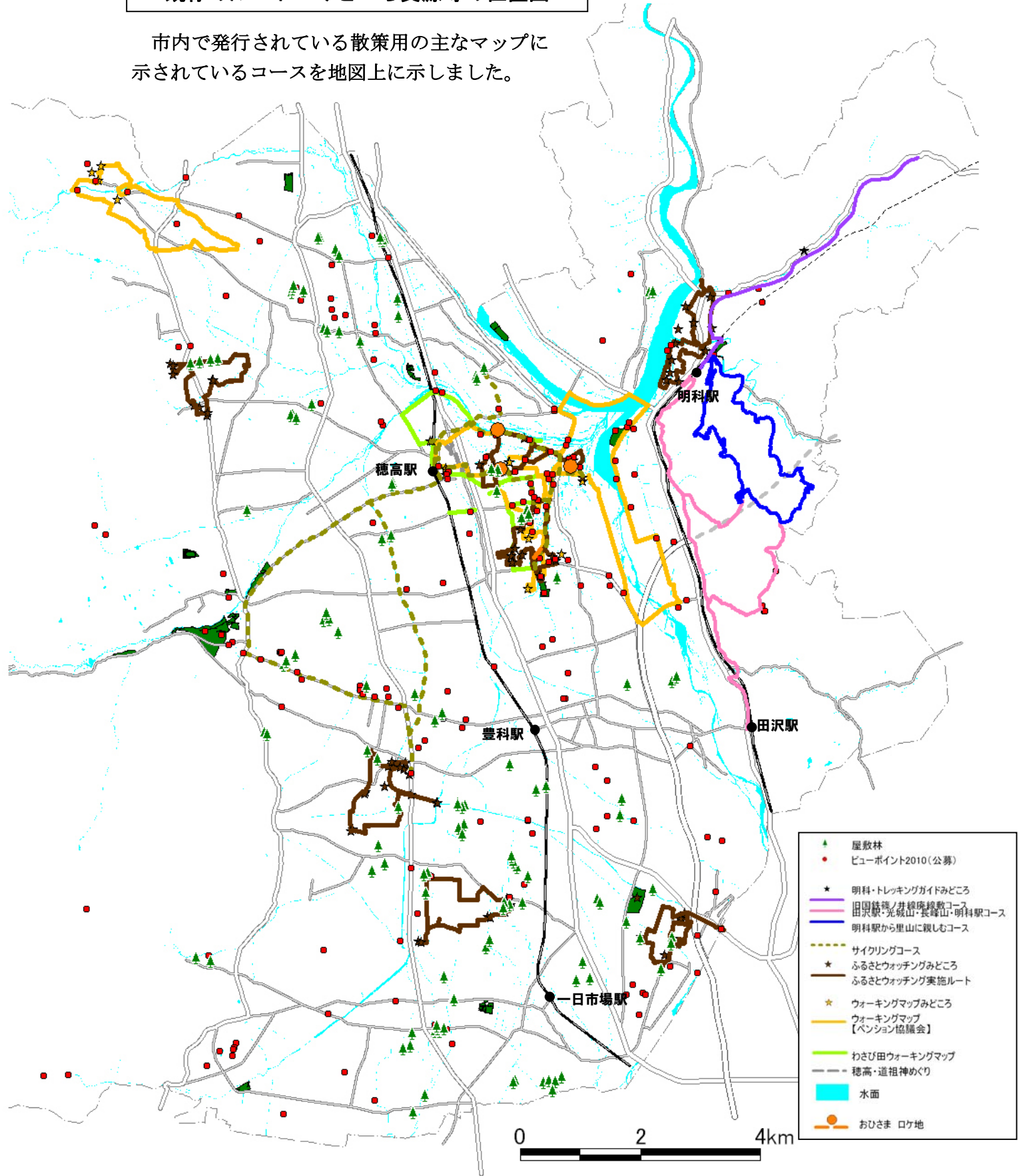
区分	フィールドミュージアム	博物館
対象	フィールド	館内及び庭園
拠点	案内所	受付
内容	地域景観資源	歴史・民俗資料
順路	モデルルート	年代順
広報	マップ ホームページ	パンフレット ホームページ
催事	見学会・体験	企画展

（※）：安曇野市フィールドミュージアム基本構想調査業務報告書 平成 23 年 3 月



既存のルート・みどころ資源等の位置図

市内で発行されている散策用の主なマップに示されているコースを地図上に示しました。



第3章 目指すところ

1 目指すところ

「歩いて楽しいまちづくり」では、市民が主体的に安曇野のフィールドをゆったり歩き、身の回りの「いいところ」をよく知ることからスタートします。

歩いて「いいところ」を知り、そのよさに共感する人々と交流し、楽しみながら守り育て、コミュニティや地域の活性化等を促すことで、健康に、心地よく暮らせる安曇野の環境の実現につなげます。

**歩いて楽しいまちづくり
～もっと健やかに、もっと心地よく暮らせる安曇野を目指して～**

このようなまちづくりの実現には、安曇野の暮らしに根ざした様々な「いいところ」の存在に気づき、活かし、継続的に守り、育てることに、より多くの人々の力で取り組むことが何より重要です。

そのために次の3つのことに着眼して、必要な取り組みを進めます。

1 歩くスピードで安曇野の「魅力」にふれあう

安曇野を特徴付ける環境や景観は、昔ながらのゆったりとした暮らしの速度のなかで育まれてきたものです。

このよさを実感するには車窓からだけでは不十分。まずは、歩くスピードで安曇野のフィールドに出てみるのが大切です。また、歩くことは健康維持にも欠かせません。健康長寿のまちづくりにもつながります。

2 楽しみながら肌で実感！

安曇野の魅力をフィールドで実感・共有

安曇野ならではの環境や景観のよさ、魅力は座学や図書だけではわかりません。フィールドに出て肌で実感できる機会が必要です。遊んで楽しむことも重要です。古きよきものと現代流の「楽しみ方」との融合を目指します。

3 連帯感・一体感をもって

やりがいのある市民参加機会の創出

このようなまちづくりは、市民が一体となって、連帯感をもって取り組むことが重要です。ひとりの力ではできません。行政だけでもできません。市民がやりがいを感じる取り組みとして継続させていくことが大切です。

暮らしの中に息づく
いいところに

歩いて
ふれあい

健やかに
楽しく

すごせるまち
づくりに

みんなで
取り組もう!!



暮らしのなかの速度を少しずつゆっくりさせ、
歩くスピードで安曇野の魅力にふれあってみると…



自分の住んでいるまちが
健やかに心地よく暮らせるまちへ。
訪れる人も楽しめるまちへ。

図 歩いて楽しいまちづくりの展開と目指すところ イメージ図



2 対象とする環境・テーマ

本プロジェクトでは、安曇野にたくさんある「いいところ」のなかでも、安曇野での暮らし、生活の環境と密接に関わって維持されている要素を対象にします。

また、次ページに示すような、市内でもよく知られている取り組みも踏まえ、対象とする環境とテーマを「水辺、山並み・田園、歴史・文化、里山・森・温泉」とします。

安曇野での暮らし

水辺

湧き水
わさび田
水路 河川

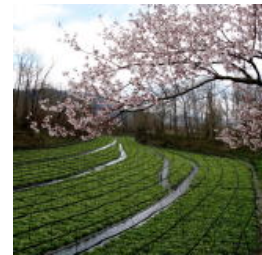
【楽しみの例】
いろいろな水遊び場
わさび田の景観
水辺散策で健康づくり
水上スポーツ
水辺学習



山並み・田園

屋敷林
田園の集落
山並みと田んぼ
堰

自転車めぐり
屋敷林・庭めぐり
四季の田園風景
捨ヶ堰の景色
里の幸・川の幸



歴史・文化

道祖神
宿場
ゆかりの先人たち
美術館
博物館

旧街道のまちなみ
礪山の歴史
歴史と文化を学ぶ・知る



里山・森・温泉

温泉
廃線敷
東山山麓
西山山麓
山麓のアカマツ林

入浴と地域食
森の散策で健康づくり
良好な眺望
山の幸の味わい





コラム 市内での参考事例

本プロジェクトの考え方に近い取り組みを進めている市内の地域の事例を、以下にご紹介します。

■安曇野を実感できるロケーションで地域の産物を活用しながら様々な楽しみを提供

安曇野の里～憩いの池～万水川

宿泊施設ビレッジ安曇野を含む安曇野の里一帯では、豊科開発公社、地元重柳区等が連携し、四季を通じて地区住民、来訪者向けに様々なイベントを提供する取り組みを展開しています。これらの活動の中心となっているのが、重柳区農村振興委員会であり、複数の部会をつくり、行事や活動を地区住民中心で展開できる体制を構築しています。

近くには、CM やドラマのロケ地などにも使われた万水川の散策路、中曽根川沿い、湧水公園、わさび田遊歩道など歩く楽しみのある場所もあります。憩いの池では毎年、5月にペンション協議会等の協力による清掃も行われています。秋にはビレッジ安曇野利用者向けのウォーキング体験も行われており、歩く楽しみと地場産品の提供、行事、宿泊や入浴等様々な楽しみを選んで組み合わせることのできるエリアといえます。

＜農村振興委員会部会の活動＞

- ・ふるさと特急便（宅配方式で年2回の地場産品の発送）
- ・農家への民泊
- ・冬季のイルミネーション
- ・ビレッジ安曇野利用者向けの農業体験 等



わさびの花つみ体験



ウォーキング体験

■まちなかや集落付近を歩いて楽しむ動き

○旧保高宿でのあめ市とタイアップしたまちあるき

毎年2月に行われる穂高あめ市の際には、近年、商工会、まちなかにぎわいプロジェクト、安曇野百選プロジェクト等の活動の一環として、ウォークラリー、古本市の開催なども行われ、歩いてまちの魅力を再発見する取り組みが進んできています。

また平成24年12月には安曇野神竹灯（かみあかり）、神社前の参道（大門通り）沿いでのライトアップ等も行われており、地元住民、一般市民、市民団体、行政等が関わり、様々な取り組みが展開されています。

穂高あめ市



あめ市の案内チラシ



ウォークラリーの様子



神竹灯の風景

■旧線路沿いのケヤキ林の再生からスタート

－旧国鉄篠ノ井線廃線敷の散策－

明科潮沢区の廃線となった旧篠ノ井線の線路沿いのケヤキの斜面林（地すべり防止のための植林）は全国でもまれな規模のものでしたが、歳月がたつにつれ、現地の荒廃は進んできました。

この財産を次世代に引き継ぐべく、平成18年4月、地元有志によるボランティア組織「ケヤキの道」が結成され、長野県や市の補助金を活用して用具を購入してケヤキ林を手入れし荒廃を防ぐ取り組みがスタートしました。現在では、明治の鉄道の面影を楽しみながら、豊富なケヤキの中を歩けるコースとして注目され、案内付きのガイドウォークも展開されています。



廃線敷コースを紹介している
コースマップ「安曇野を歩こう」より

第4章 取り組みの内容

1 取り組みの内容・5本柱

具体的に取り組むこと・実践していくこと 5本柱

歩くスピード
で安曇野の
「魅力」にふ
れあう

楽しみながら
肌で実感！

連帯感・
一体感をも
って継続・
参加

**1 移動のしくみづくり・
交通体系の工夫**
駐車場までの移動手段を工夫し、現代人が「歩こう！」とする環境を整える。

**2 よさを高める
施設の整備・再生**
休憩ポイント、親水箇所・散策路の整備、サインの拡充等でより身近な空間に。

3 ガイド・語り部の確保・養成
魅力を伝える人を確保し、活躍の場を設ける。人から人へ語り伝える。

4 安曇野らしい楽しみの提供
歩く+体験を一体化させた楽しさを提供。日ごろ関心の薄い人をひきつける。

5 情報の共有と発信
集めた様々な情報を最新の技術も活用して広く知らせる。

イメージ例) 市内の川を活かしていいところ2つをつなぐと



川沿いのいいところをゆっくりとした移動手段で楽しむしかけを生み出します。



その間のみどころをもっと楽しむための環境整備を進めます。



いいところの魅力を伝えてくれる人にも協力いただき、伝え継承していくための活動を展開します。



これらを通じて、楽しい活動（アクティビティ）や体験の機会を生み出します。



このような取り組みの情報を集め発信し、観光振興、地域づくりにつなげます。



5本柱の取り組みを一定のエリア内で総合的に取り組みます

■いままでの手法は...

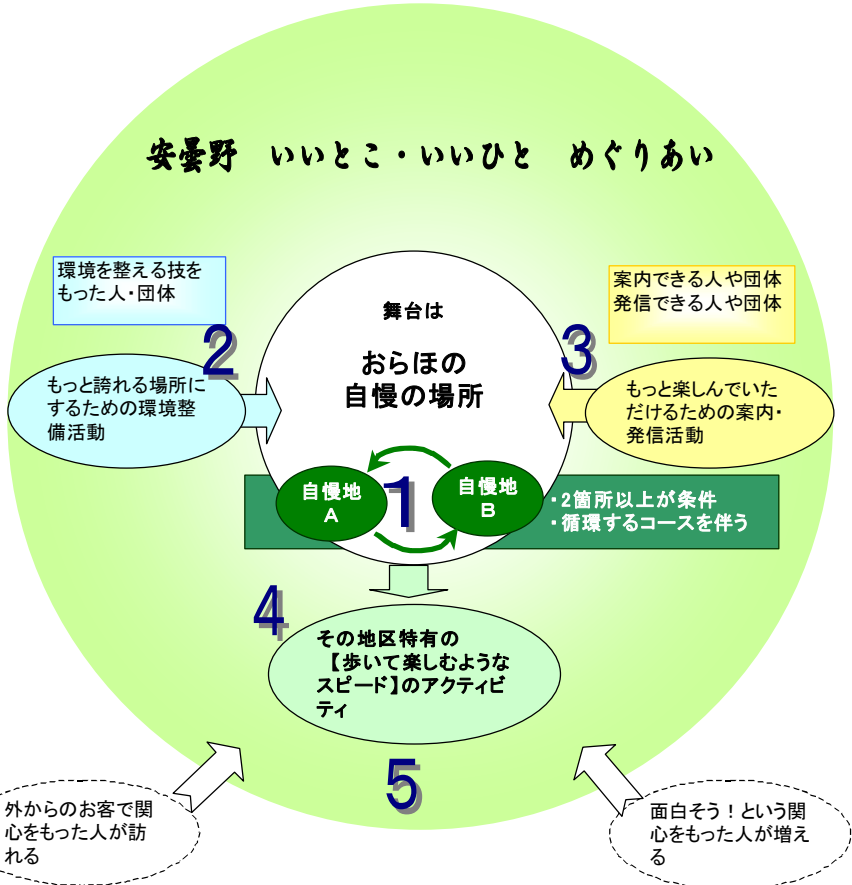
取り組み内容5つの中から1つを選び、1つの場所で1つのことに取り組むスタイルが主でした。

■この取り組みでは...

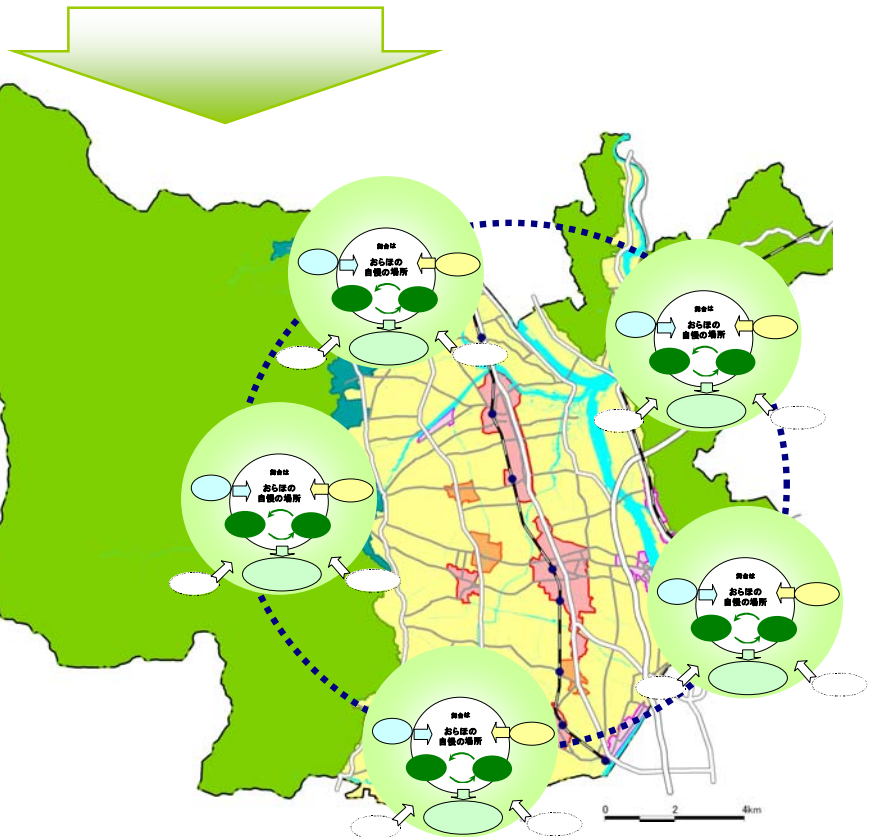
ゆったりとした移動手段でつなぐことのできる複数のみどころを選びます。

これらを含む一定のエリアのなかで、5つの取り組みを相互に関連付けながら実現させていくことに取り組みます。

右の図は、そのイメージを図化したものです。みんなで皿のうえに材料を集め、料理していくイメージが進めます。



このような「めぐりあいのしかけ」を市内各所のフィールドを活かしてつくり、さらに相互に結びつけることで、安曇野全体の良好な環境を維持と地域コミュニティの活性化につなげます。





2 取り組みの段階的進め方のイメージ

5つの取り組みを一定のエリアで進めるといっても、取り組みの内容は多様ですので、期間を分割し、段階を追っていくことが必要となります。
 本プロジェクトの計画期間である5年を例にとり、そのイメージを示します。

各STEPの目標

STEP1

1年半程度

いいところを…
歩いて知ろう！

■まずは歩いて、材料集め ～地区のお宝マップ・活動カレンダーづくり～

- ・歩いて気づいた、お宝や問題箇所のマップ化
（環境学習活動として市民団体がサポート）
- ・様々な行催事・活動を拾い出してカレンダーづくり

■材料をアレンジし、活動アイデアを具体化 ～集めた材料を皿の上で料理するイメージで～

- ・歩いて楽しむ活動アイデアを検討
（本書巻末資料参照）
- ・次年度にできることを選択・絞り込み



まちに詳しい方の話をききつつ、わがまちのお宝探しを展開



お宝マップやお宝を活かした地区の活動カレンダーづくり

STEP2

1年半程度

いいところを…
楽しもう！

■活動アイデアを試し、地区内に「歩いて楽しむ」活動を発信

いろいろな人やものを組み合わせて新しい発見・出会いを誘導

◆柱1+柱2(※)
例：健康歩きの行事の途中でごみ拾い

◆柱3+柱4
例：散歩とお宝の写真撮影講習を組み合わせ、地元歩きわがまち再発見

◆柱4+柱2
例：祭り期間中に子供たちの古民家めぐりと落ち葉掃除の協力

◆柱5
歩いて楽しめる活動とそのコースをみんなに文化祭で報告

各STEPの取り組みのイメージ

生まれてくるもの

- ・まちのお宝などの情報が地図作成等を通じて整理される
- ・地区内外に自分のまちへの再認識を促すベースができてあがる

住民の認識の変化

地区ぐるみの
新たな話題の誕生

- ・子どもたちが地域のいいところや宝に関心をもって学習する機会が増加
- ・歩く楽しみ、発見の楽しみとごみ拾いや清掃を組合せて実施し、参加者増加

図 5年間を例にした1地区での取り組み展開イメージ

(※) 柱の番号は10ページの1～5と対応



このプロジェクトは、ゆっくりとした速度で移動することにより「いいところ」を見つけ、地区の行事や公民館等の活動を活かしながら、地区独自の楽しみを、世代を超えた交流を通じて生み出し、人と人とのつながりを深めていいところを受け継いでいく取り組み、ということが出来ます。

STEP3

2年程度

いいところを…
受け継ごう！



健康ウォーク+ごみ拾い



散策途中で写真撮影講習



子どもたちと屋敷林めぐり
+庭清掃のお手伝い

「学ぶ・楽しむ」を
契機に、行催事への参加
の輪が拡大

地区行事に新たな
潮流の誕生

■柱1~5の組み合わせの定着

「歩いて楽しむ」活動のうち、効果的なものを地区の年間事業計画に位置付け

■取り組みを継続・実行できる体制づくり

- ・新たな取り組みを継続できるグループが地区内に立ち上がる
- ・子どもたちが地区のお宝を記録し伝える活動を開始

■ソフトからハードへ ~不足するモノや環境の整備を拡充~

- ・第1歩として散策コースに歴史や地区の案内板をみんなで作成
- ・活動成果と地域の要望を踏まえ市の支援で危険箇所を解消



子どもたちが地域の
お宝を伝える語り部に



みんなで案内板を整備

- ・自分たちの手で自分たちのまちを楽しみながらよくする活動を進める体制の構築
- ・地区住民や市民のお散歩コースが確定することで歩道などの危険箇所への対応が以前より早くなり、案内地図や案内看板整備への関心が高まる

自分たちの手でお宝を
活かす雰囲気誕生

地元のコミュニティ
再生のきっかけ

困っていたところや
気になっていた場所
が改善される



3 5年間の目標と将来イメージ

(1) 5年間の目標

本プロジェクトでは、“自分たちの住む地区において自分たちの手で進める”歩いて楽しいまちづくりのモデルとなる1地区（「モデルエリア」とする。）を定め、全市に向けた取り組みやしくみづくりの実現を目指します。

上位計画の考え方や8ページのテーマを踏まえ、水景観と歴史・文化遺産、良好な環境の保全、育成、活用に重点を置くことが可能な地区を対象とします。

(2) 将来イメージ

本プロジェクトの実行により、モデルエリアで一定の成果を得て、これを発信しながら、徐々にその成果を市内に広げていくことを将来の目標とします。

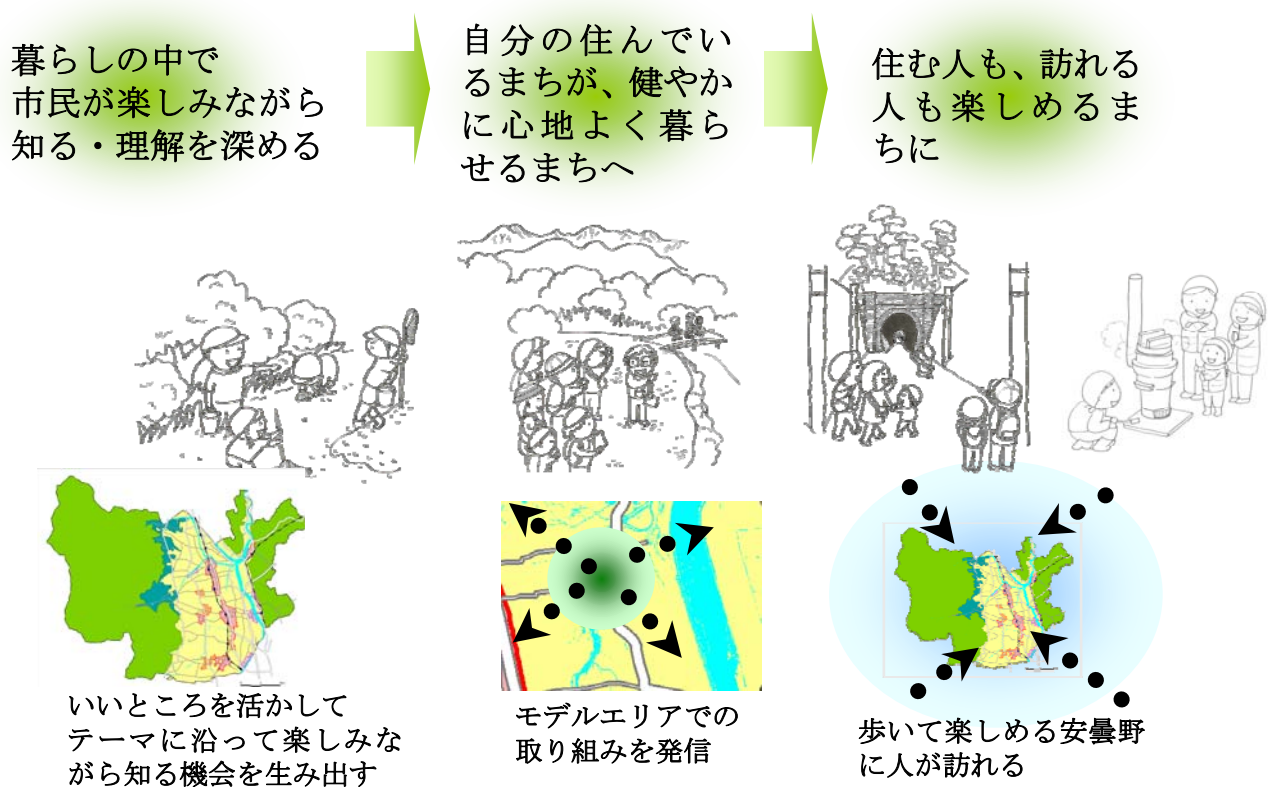


図 取り組みの段階的発展の概念図

第5章 取り組みを推進する体制・しくみ

1 「協働」による取り組みの推進

この取り組みは、対象とするエリア内に暮らす方々(地区住民)の理解、協力と参加を得ながら、他の市民、行政等との「協働」による考えのもとで進めます。

- ・本プロジェクトは、市民、事業者と行政とが「協働」の考えのもとで、一定のエリア内を対象として進めます。
- ・この考えに沿い、エリア内に住む市民【地区住民】とそのほかの市民【一般市民、市民団体、事業者等】、行政の3つの主体がそれぞれの役割を認識し、相互に連携しながら進めることとします。
- ・3つの主体の連携事業として(仮称)歩いて楽しいまちづくり推進プロジェクトを進めます。

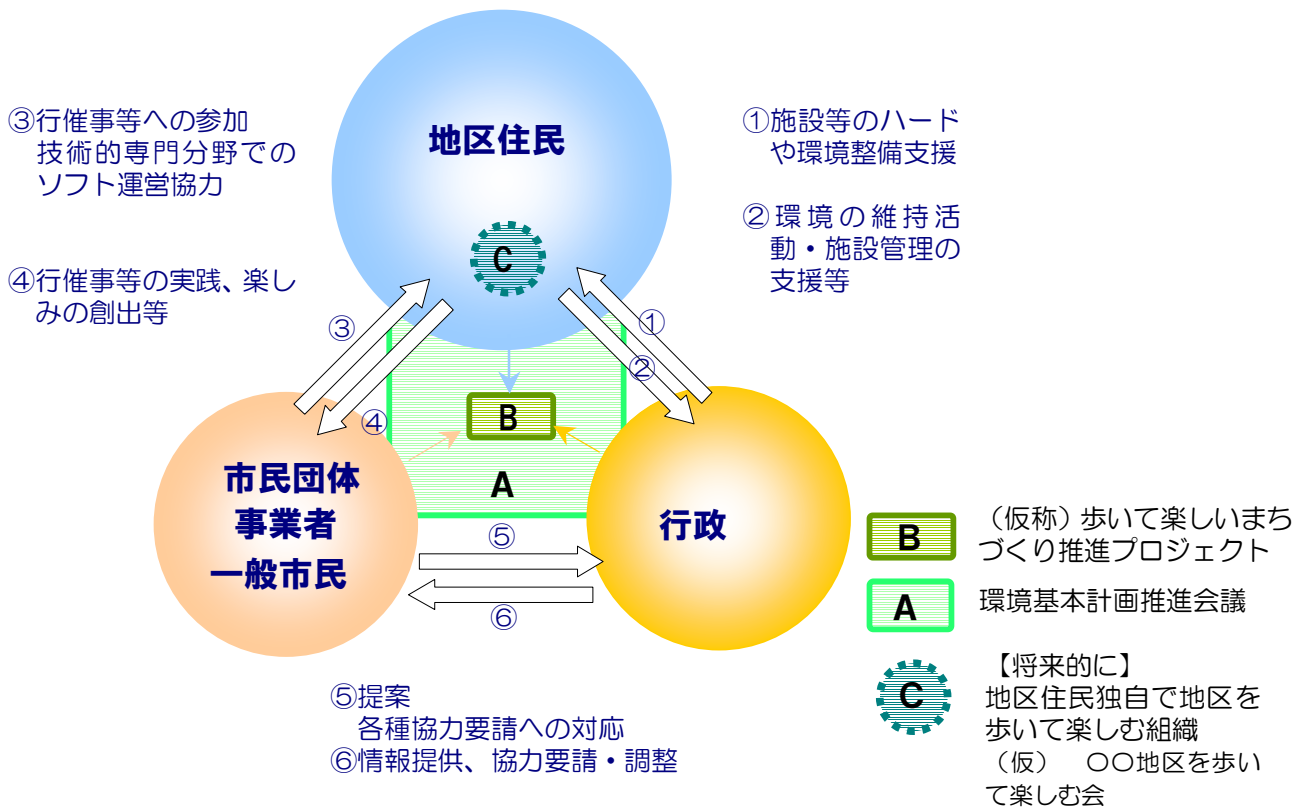


図 協働による本プロジェクトの進め方の概念図



2 役割分担と5年間の進め方

計画対象の5年間で、モデルエリア1地区を選定し、この地区を対象に、住民、他エリアに居住する市民や市民団体、行政等の協働により、段階を追って進めます。

5年間の進め方イメージ

STEP1

1年半程度
いいところを…
歩いて知ろう！



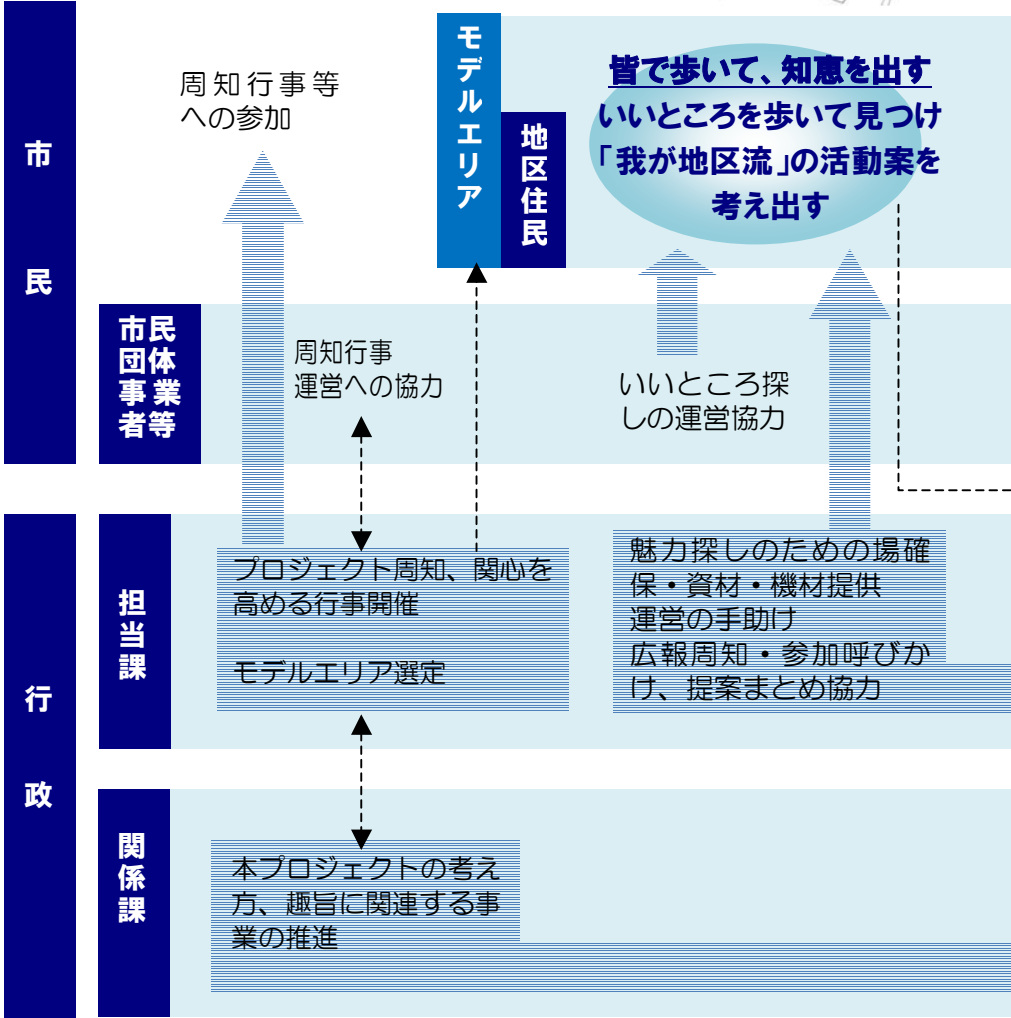
取り組みの
発信・周知
モデルエリア選定

関わる主体と役割分担

○地区住民
：本プロジェクトへ主体的に取り組む
・自分たちでいいところに気づき、楽しみ方を発案し、受け継いでいく取り組みを進める

○市民団体
：専門分野でノウハウを提供
・いいところ探し等の進行の支援
・楽しむ行事の計画や運営への人的協力（観察、散策、案内などの分野に応じて専門的な技能の提供）

○行政
：本プロジェクトに関わる市民の活動を後方支援
・市民の取り組みの後方支援を担う。周知・広報、組織間の調整が主体。
・住民からの活動案の内容に応じて、関係部局で役割を分担し、連携を取り合って進める。





まずは、地区の行催事や公民館等の既存の活動を活かし、その拡充からはじめます。これを継続しながら、地区の環境や施設の改善等の活動を組み合わせて進めるイメージです。

STEP2

1年半程度

いいところを...
楽しもう!



STEP3

2年程度

いいところを...
受け継ごう!



案を実践して楽しむ

「我が地区流」の
歩いて楽しむ活動を
実践する

「我が地区流」の活動を継続・充実

参加の輪を広げ
いいところを受け継ぐ
取り組みを進める

専門的分野での
協力(自然観察、
歴史学習等)、行
事運営の協力

専門的な部分
での協力(環
境づくり等)

地元からの発案
内容に応じて関
係課へ協力要請

活動継続に
必要な措置
についての
相談・助言

行事等にあたり
必要な機関との
連携・調整の支援

活動継続に
必要な措置
についての
相談・助言

関係する機関
との連携・調
整の支援

活動実施に係るソフト事業の連携

関連する施設等の整備事業の
連携



資料 取り組み内容 アイディア集

具体的な取り組み 5 本柱に沿った実施内容については、本プロジェクトの対象地区の特性に沿って具体化していくことが重要です。

また、取り組みを実現するスケジュールも、時間はかかっても急ぐべき活動から、短時間で可能な内容など様々です。

このような点を踏まえ、ここでは、本書の5ページに示した様々なルートの集積している区域の実例などを収集して検討した取り組み内容の詳細アイデアを5つの柱ごとに整理しました。

今後、市内で進める「歩いて楽しいまちづくり」を様々な地区で展開するうえでの参考・ヒント集として活用いただくことを想定してまとめました。



ここにまとめる内容は、プロジェクト計画書5ページに示した様々なルートの集積している区域を例にして、市民・行政の協働で検討した「アイデア」です。

具体的に取り組むこと・実践していくこと 5本柱



1 移動のしくみづくり・交通体系の工夫
駐車場までの移動手段を工夫し、現代人が「歩こう!」とする環境を整える。



2 よさを高める施設の整備・再生
休憩ポイント、親水箇所・散策路の整備、サインの拡充等でより身近な空間に。



3 案内人・語り部の確保・養成
魅力を伝える人を確保し、活躍の場を設ける。人から人へ語り伝える。



4 安曇野らしい楽しみ(アクティビティ)の提供
歩く+体験を一体化させた楽しみを提供。日ごろ関心の薄い人をひきつける。



5 情報の共有と多彩な発信
集めた様々な情報を最新の技術も活用して広く知らせる。



実現に向けては、クリアしなければならない課題を内包している内容も含まれていますので、将来の実現への思いも込めた、取り組みメニュー提案といえます。

詳細は、次ページ以降に5本の柱ごとにとりまとめました。

取り組みのアイデア（取り組みメニュー提案）

- ① 滞留拠点施設の設定
- ② 「歩いて楽しめる循環コース」の設定
- ③ 幹線道路付近での安全確保
- ④ 「ゆったりとした」新たな移動手段の創出
- ⑤ 複数の滞留拠点を結ぶ移動手段の充実
- ⑥ 水辺を軸にした移動ルートの形成

- ① 美化活動の推進
- ② 環境の質を高める整備
- ③ トイレの確保
- ④ 歩くときの楽しみ方を補強する整備
- ⑤ 水辺に親しむための空間整備
- ⑥ 歴史資源の価値を高める施策との連携
- ⑦ 「水」を活かした名所づくり
- ⑧ 協働によるまちの施設整備の促進

- ① 案内する情報の共有
- ② 楽しみながら学ぶ・知る機会の確保
- ③ やる気を継続する方法 —安曇野検定の取り組み拡充—
- ④ 着地型観光推進の原動力づくり
- ⑤ 連続した体験学習機会への発展

- ① 「食」の楽しみ
- ② 「健康」の楽しみ
- ③ 「水遊び」の楽しみ・「水辺」での楽しみ
- ④ 美しい景色を楽しむ
- ⑤ 既存の体験の場や機会とのつなぎあわせ
- ⑥ まちなかでの賑わいの創出

- ① 情報を集めて共有・アレンジする体制の構築
- ② 取り組み周知のための発信の一元化
- ③ 滞留拠点のインフォメーションセンターとしての機能強化
- ④ 情報集積拠点・専門的な支援体制の確保(全市を対象とする博物館的施設の確保)
- ⑤ 印象的な手法を駆使した発信
- ⑥ 様々な情報通信技術(ICT)を活用した発信
- ⑦ 発信内容の統一性・一貫性の確保



アイデアを検討するうえで参考にしたエリア

アイデアの検討にあたっては、市全体を眺めて、プロジェクト本文 8 ページに示したテーマに沿った「いいところ」や「資源」が集積しており、かつ、車で訪れても駐車できる拠点がある代表的な 5 つのエリアを参考にしながら作業を進めました。

表 アイデアを深めるため参考にしたエリア

エリア	テーマ	拠点施設例	具体的な活動(楽しみの提供)例
①ビレッジ安曇野周辺	湧水、わさび田	ビレッジ安曇野・安曇野の里	いろいろな水遊び場の提供 わさび田めぐり・わさび田跡地の利用
万水川西の田園	田園 集落 歴史		四季の田園風景の満喫 碌山の歴史にふれる
②穂高公園～三角島	田園、湧水、わさび田	穂高公園 大王わさび農場	地域の食(里の幸・川の幸) 水辺散策で健康づくり 自転車でめぐる安曇野
穂高地域旧市街	歴史	穂高総合支所 穂高神社	旧街道の歴史的まちなみ 買い物の楽しみ
③堀金～三郷集落	田園 歴史	道の駅 義民館	臼井吉見の歴史、多田嘉助騒動を知る 拾ヶ堰、田園集落と屋敷林
④Vif 穂高以北山麓一帯	里山・森・温泉	Vif 穂高	地域の食(山の幸) 森の散策で健康づくり 山麓の屋敷林・庭めぐり
⑤明科市街～廃線敷	歴史 里山	あやめ公園 廃線敷駐車場	旧明科市街のまちなみ 廃線敷トレッキング
⑤長峰山・光城山	里山・森	散策路用駐車場	東山集落の散策 安曇野の眺望

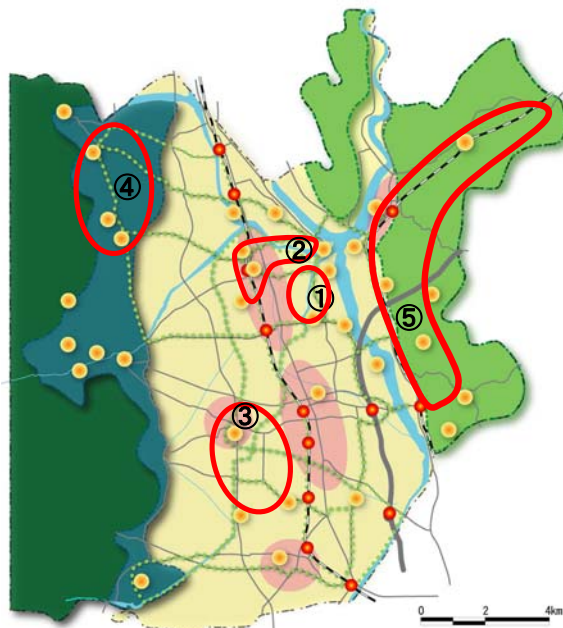


図 参考エリアの位置



1 移動のしくみづくり・交通体系の工夫

取り組み1 移動のしくみづくり・交通体系の工夫

ゆったりとした速度で、安曇野にふれあうことは、自動車での移動が当たり前になった現代人にとっては、なかなか難しいことです。

より多くの人に、ゆったりとしたスピードで安曇野のいいところを知って理解を深めていただくためには、駐車場までの移手段を工夫し、現代人が「歩こう！」とする環境を整える取り組みを進めることが重要です。

① 滞留拠点施設の設定

「歩いてゆっくり移動して楽しむ」ためのスタート・ゴールの機能を併せもつ次のような施設を「滞留拠点施設」として位置付け、本プロジェクトに沿った取り組み推進の要となる施設として扱います。これにより、市内での取り組みを定着に一定の効果が期待できます。

- 多数の車両の駐車が可能で、トイレがある施設
- 様々な活動（アクティビティ）の出発地点となる施設
- 情報発信も可能な機能を有している施設

② 「歩いて楽しめる循環コース」の設定

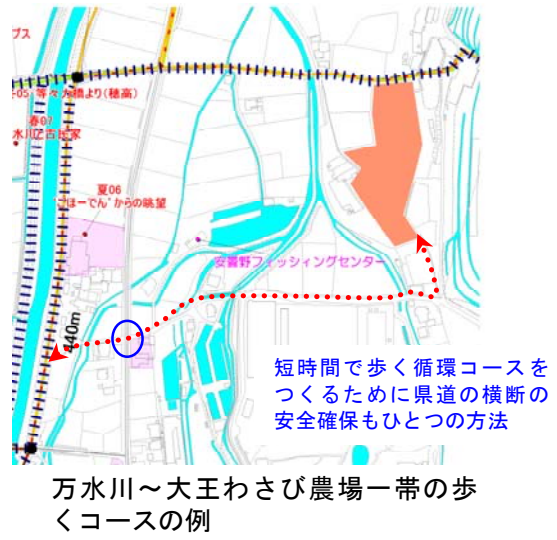
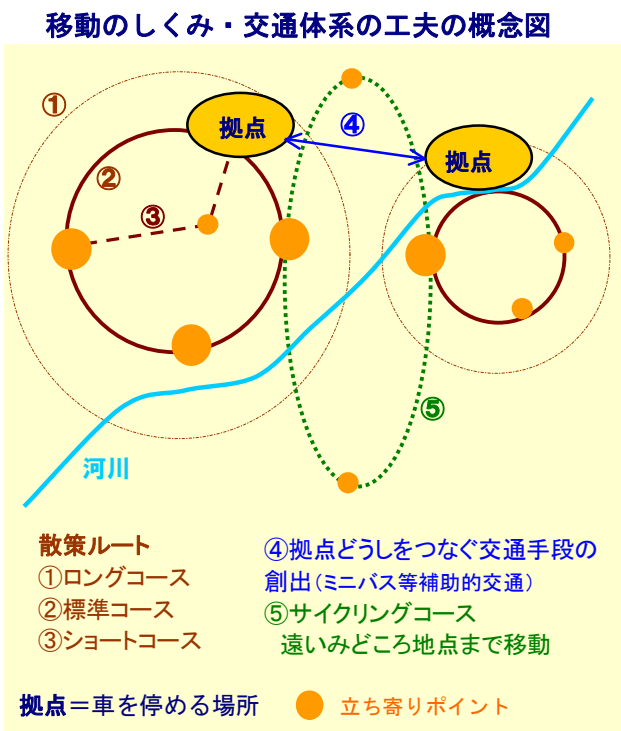
滞留拠点施設からスタートしてみどころをめぐるって戻ってくるのできる「循環コース」を設定することが大切です。

- ロングコースとショートコースの設定
- 複数の選択肢のあるルート

③ 幹線道路付近での安全確保

自動車交通量の多い幹線の一部がみどころをめぐるの重要なコースのなかに含まれる場合があります。このような条件での安全確保を講じていくことが必要です。

- 歩行者や自転車利用の区間が長く、歩道の連続性が十分確保されていない場合には幹線に歩道を設置
- 歩く道と自動車の道の仕分け
- 可能な区間では、主要幹線に歩道を併設せずとも横断歩道を確保して歩くルートをつなぐ方法も有効





④ 「ゆったりとした」新たな移動手段の創出に向けた検証

市内の観光拠点などを改めて概観すると、歩くという手法に限らず、ゆっくりと移動手段を導入できる可能性も秘めています。市内の様々なエリアの特徴に応じた移動手段を研究していくことで、ゆったりとした時間の過ごし方の魅力も高まります。

- 水上移動（カヌー等）
- 周遊バスなどの補助交通
（イベントなどにあわせて期間限定で運行）



⑤ 複数の滞留拠点を結ぶ移動手段の充実

比較的平坦な地形が広がる安曇野では、複数の滞留拠点を自転車で結ぶことで、さらに楽しみ方の幅が大きくなると考えられます。

民間資本の協力・関係企業等の強力・支援を得ながら、乗り捨て・回収方式によるレンタサイクル運営のしくみを構築していくための検討・研究を続け、良好な方策を模索していく必要があります。

- 採算性のある乗り捨て・回収システム構築手法の研究
- 滞留拠点施設での期間限定のレンタサイクルステーションの設置



ボートにのって水面を移動

⑥ 水辺を軸にした魅力ある移動手段の形成

親水の拠点を川の駅として位置付け、親しみやすい空間へと転換するなどして、水上の移動の楽しみや魅力を高めることも大切です。

2 よさを高める施設の整備・再生

取り組み2. よさを高める施設の整備・再生

いまある「いいところ」のなかには、その価値が十分に伝わらない、あるいはそこに滞留できない場所が多くあります。その魅力をさらに高めたり、より身近にしておくために補足的な施設整備（休憩ポイント、親水箇所・散策路等の整備、サインの拡充等）を進めるとともに、放置されて使われていない空間を、現代流に工夫して再利用する取り組みを進めることが重要です。

①美化活動の推進

きれいな環境、美しい環境は人をひきつけます。「いいところ」をきれいに保つための清掃・草刈・つる切りなどの作業を継続できる地域のコミュニティの維持、活性化につなげる取り組みを支援する方を講じていく必要があります。

○町を美しくする日（例：重柳区）・ごみゼロデーなどにあわせて一斉清掃、美化活動

参考例）三角島 長野県との河川アダプト契約第1号

○散策、ウォーキングなどの行催事にあわせて多くの人の協力により川沿いのごみ拾いを実施

○地区の祭りや行事の周知に効果的な時期に、ごみ拾いや川の清掃、アレチウリ駆除等を兼ねた水辺の観察会を実施（地区の行事周知と清掃の両面に効果を促す）



川普請の作業の様子

②環境の質を高める整備

過去に耕作されていた箇所で荒れてしまった箇所や、雑草類の繁茂が著しい環境等において、その環境のもつ多面的な機能を回復させるための整備も重要な取り組みのひとつです。

○学校との連携による休耕わさび田の再生と多面的利用
例：地元の学校等と連携し、わさびの育成やわさび田の成り立ちから学ぶことからスタート

○屋敷林サポーターによる屋敷林の管理支援

○集落に近い荒れた里山の再生と散策コースの整備
（代表例：明科 潮沢区 篠ノ井線廃線敷）

○ヨシ等が密生してしまった水辺やわさび田跡地の空間をビオトープ空間として再生



安曇野の里湧き水探索路 わさび田遊歩道上流側



耕作されていないわさび田



③ トイレの確保

歩いて楽しむうえで重要なトイレ。主要なコース沿いにある公共施設のトイレの活用・追加整備のほか、商店・店舗にあるトイレも有効に活用し、体系的に確保することが重要です。

- 既存の公共トイレの把握
- 不足箇所への新設



白金公民館敷地

④ 歩くときの楽しみ方を補強する整備

歩いて「楽しむ」ためのしかけとなるツールを、ルート沿いにちりばめ、歩く環境の価値をさらに高めることが重要です。

- 名所の紹介サイン
例) おひさまロケ地の案内サインの設置
- 指導標となるサイン整備
例) 距離を明示して目標をもって歩けるコースとする
ぴったりとした距離のコースが好まれる
- 休憩ポイントの整備
- 健康づくりの案内・しかけの充実したルート整備



廃線敷

公的な空間のトイレの一例



おひさま ロケ地の案内サイン

⑤ 水辺に親しむための空間整備

水辺での楽しみを提供できるポイントでは、地域の利水の実態や、河川管理者、愛護会、水利組合、営農者等、関係者の声を十分把握しながら、下記に示すような安曇野ならではの親水空間の整備の方法を模索し、そのモデルとなるようなケースを生み出していく必要があります。

- 湧水の”湧き方”をもっと面白く演出（憩いの池）
- わさび田跡地の湧水公園的利用・整備
- 水辺に近づける場・水際の散策路整備
親水空間としての再生（欠ノ川等）
- ラフティング等の発着点の整備



湧水を観察できる旧わさび田



⑥ 歴史資源の価値を高める施策との連携

田園の集落や旧街道沿いに古くから残ってきていた民家等、市民生活と身近な距離にある歴史的な価値の高い資産が、徐々に失われつつあります。

これらの価値を再確認するための調査や、保存、活用していくために必要な措置を講じることの出来る文化財保護、景観保全関連の法制度の活用を進めます。

- 民家調査の実施
- 歴史的な価値のある民家の登録文化財指定による保全
- 景観重要樹木・景観重要建造物等の指定
- 旧宿場町の街道沿いの街並み整備
- 景観育成住民協定の締結



旧保高宿のまちなみ
見学の様子



相馬愛蔵住宅の見学

(ふるさとウォッチングマップより)

⑦ 「水」を活かした名所づくり

安曇野の湧水や地下水は、安曇野の魅力を高める一つの重要な資源です。これを大切に活かして市民や来訪者に味わっていただきながら安曇野のPRにつなげてくため、湧水の水飲み場整備などを研究していく必要があります。



尚仁沢湧水名水パーク
自己責任で採水し持ち帰る事例
(東荒川ダム親水公園)

⑧ 協働によるまちの施設整備の促進

つくった施設等が陳腐化しないためにも、「整備」に関する取り組みは、市民が楽しみながら継続して作業できるテーマとすることが理想的です。これにより目的が明確に定まり、達成感、整備したものへの愛着を高めることができます。

協働のまちづくりの観点にたって、地域の施設づくりの取り組みを進めることが大切です。

- 例)
- ・荒れたわさび田を再生する
 - ・林の下草刈り 歩くコース沿いに草花を増やす
 - ・ごみ拾い 自分たちで案内看板を考え、デザイン

3 案内人・語り部の確保・育成

取り組み3. 案内人・語り部の確保・育成

ただ眺めて歩くだけでは、くらしのなかに息づいた魅力をつくりあげてきた市民の苦労話やその実態も伝わりません。語り伝えてくれる人がいて初めて理解が深まります。

魅力を市民や来訪者の皆さんが理解し、そこで得たものを日々の暮らしや活動に戻していくには、その魅力を伝える人を確保していく取り組みを支援する取り組みが不可欠です。さらに、伝える人たちの役割や重要性を皆で認識し、その方々の活躍の場を設け、人から人へ語り伝えるしくみをつくることも重要です。

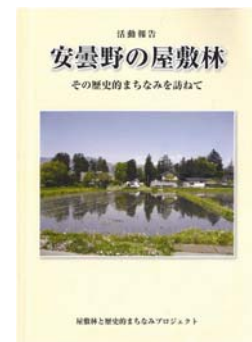
① 案内する情報の共有

安曇野ブランド推進の取り組みを通じ、様々な分野の資料が蓄積されてきています。

- ・屋敷林
- ・わさび
- ・ビューポイント
- ・古い民家
- ・道祖神

これらの情報を内外に向けた案内の基盤として多くの人が活用できるよう、情報を一元化していく必要があります。

また、紹介できる「昔の話」の収集と情報整理も引き続き進めることが大切です。



安曇野の屋敷林調査の報告書

② 楽しみながら学ぶ・知る機会の確保

話をきくだけでなく、ウォークラリー、オリエンテーリングなど、探す楽しみをセットにした学習・体験も重要です。

千国街道沿い（旧保高宿）のあめ市などの機会に市民主体で実施されているウォークラリーなどの取り組みはその一例です。このような取り組みを準備・誘導できる市内の団体等が活躍できるようなしくみを今後構築していく必要があると考えます。

とくに多数のプログラムの実践が可能な安曇野環境市民ネットワークを活用した環境学習、クイズ形式などによる楽しい地域学習の推奨は重要です。



ウォークラリーの一場面

安曇野環境市民ネットワーク
団体活動紹介
・環境学習プログラム
～環境学習の推進に向けて～



環境学習プログラムのガイド

③ やる気を継続する方法 —安曇野検定の取り組み拡充—

平成23年から始まった安曇野検定では、座学以外の学習機会（野外での学習の機会）も設けられてきています。

また、このような取り組みに関連する、地域を学ぶ学習のプログラムの提供のしくみも生まれてきています。

○例：安曇野検定

平成24年度は自然編、25年度は総合編とし、野外での研修も開催

○例：環境学習関連のプログラム

- ・環境市民ネットワークの30団体「プログラム」



ふるさとウォッチング



○例：建築・文化・歴史等の学習機会

- ・穂高北小での安曇野建築学習のプログラム（建築士会）
- ・ふるさとウォッチング（ふるさとづくり応援団）での屋敷林めぐり、道祖神めぐり、歴史資源めぐり

より効果的な案内人養成につなげていくため、これら関連する内容を効果的に組み合わせ、運営するしるきを充実させていく必要があります。

また、市民、市内居住者だからこそその面白さ・メリットを生み出して興味をかきたてることが重要です。そのアイデア例を下記に列挙します。

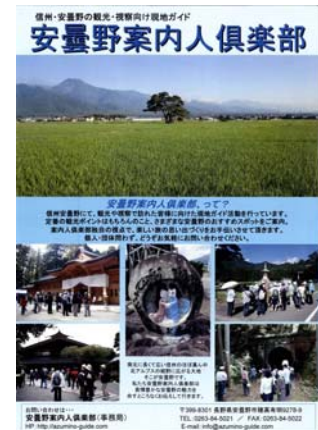
- ポイント制による連続参加型の講習会を地元公民館の活動との連携により実現
- 企業・団体等とのマッチング
 - 「安曇野を良く知っている」「知ろうとしている」企業向けの体験・講座
- 市内の両端のエリアを双方の居住者が楽しむ「市民交流」のしかけ、
 - 「しかけ」をつくり運営する主体の育成・確保

④ 着地型観光推進の原動力づくり

案内人の養成は、今後の着地型観光の推進に役立つと考えられます。

話による案内技術の向上を図るだけでなく体験活動の講習なども取り入れ、幅広い分野で安曇野の楽しみ方を案内できる人材育成を行政が支援する等の措置が重要になると考えます。

- 安曇野案内人倶楽部等、先進的な活動をする組織による案内人養成講習（H24 年度に一部実施）
- 宿泊経営側が提案するツアーをサポートしてくれる案内人の養成・確保



安曇野案内人倶楽部のチラシ

⑤ 連続した体験学習機会への発展

将来的に案内人として活躍いただける方々を結集していくには、先生がいて教えるスタイルだけではなく、みんなでみつけながら、遊びながら発展していく展開も必要です。

この地で取り組んでみたいことを1年間の枠のなかで「講座・講習、体験、遊び」を織り交ぜて、通年の活動として実践していくような取り組みを、行政、市民団体等の連携で進めていくことが、今後重要です。

- まちゼミの開催（穂高商工会で計画中 H25 実施予定）
- 公民館活動における地域学習、博物館等の連続講座と地域や団体等とのマッチング





4 安曇野らしい楽しみの提供

取り組み4. 安曇野らしいアクティビティの提供

学ぼうとする、知ろうとするきっかけとなるのは、楽しさや満足度の高い「体験」です。

博物館でも展示の開設を読むだけでは、なかなかその魅力が伝わらないものです。安曇野のいいところを実感するには、このフィールドでの楽しさや満足できる体験が重要になります。

歩く+体験を一体化させた楽しさを提供し、日ごろ関心の薄い人をひきつける取り組みを進めることが大切です。

① 「食」の楽しみ

そば、わさび、つけものなど安曇野の食を体験できる場を取り込んだ発信やコース設定、案内を積極的に進め、歩行と良質な地域食材をセットにした健康づくりに取り組む方法は、市民の関心を高める有効な方策になると考えられます。

【西山山麓、ビレッジ安曇野～大王わさび農場一帯等の実例または実例をもとにしたアイディア】

○そば

- ・こねこねハウス等での楽しみの内容拡充
- そば打ち体験と農産物販売・食の提供のセット

○わさび

- ・わさび料理のレシピ発行

○つけもの

- ・荒廃農地を使って生産体験から収穫まで一連で体験できるプログラム
- ・農業振興施策・わさび産業振興との連携

○おいしい水の提供

- ・名水百選（ビレッジ安曇野）の名水スタンドのさらなるPR

○地場産品の販売

- ・安曇野の里での「ふるさと特急便」
- 安曇野案内人倶楽部のツアーでチラシを配布
- ・夏場野菜の品評会を実施し、安価で販売



そばうち体験（こねこねハウス）



地場産品を活かした味の提供は重要



② 「健康」の楽しみ

温泉を活用した施設が旧5町村内各所にあることから、安曇野をゆっくりとしたスピードで楽しんだ上で、温泉につかり体を癒す取り組みも展開できます。

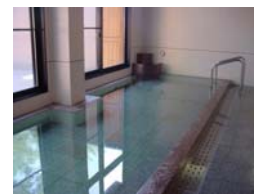
また、歩くコースをスポーツのトレーニングの場として、また、様々な歩き方を案内することで「健康ウォーク」の場として利用することも可能です。

健康づくりも「歩いて」の楽しみのひとつとして重要な切り口です。歩く活動を進める市民とともに、次のような取り組みをイメージしながら、取り組みを進める方法も有効です。

- 温浴施設を活用した健康ウォークの推奨
- 健康づくりにチャレンジできるルート整備
(距離表示ポスト・路面表示等の導入)
- ウォーミングアップルート、散歩道提供
- インターバル速歩、コーディネーショントレーニングの案内
- 速歩、くねくね歩きなど”足首を動かす”歩き方の案内



廃線敷での散策の一場面



ビレッジ安曇野
名水の湯



八面大王の足湯
歩いた後の温浴施設活用も有効

③ 「水遊び」の楽しみ・「水辺」での楽しみ

豊かな自然に囲まれた水辺での「水遊び」は安曇野の次世代に「ふるさと」を印象付けたり、愛着を高めるうえで重要な遊びです。

安曇野環境市民ネットワークなど、専門分野に長けた人材を有する団体やグループがさらに活躍する場として、水辺の空間を活用していくことも重要です。

- わさび田跡地の利用(水遊びエリアとして)
- 段階を追って楽しめる水遊び場の提供
- カヌーなど水上レクリエーション
- 特産品生産のバックヤード見学ツアー
 - ・見学用わさび田の設定と案内プログラム
 - ・ニジマス養魚のイロハの案内



せせらぎでの水遊び(明科)



わさび田遊歩道から見えるわさび田
(案内ひとつあるだけで興味関心も変わる可能性がある)



④ 美しい景色を楽しむ

美しい景色そのものを見て楽しむだけでなく、スケッチなどの創作活動の楽しみの対象として活用する楽しみや、光を使って楽しむ方法も、安曇野を楽しむ一例です。

- スケッチ、写真などの芸術活動の場として活用
- イルミネーション、ライトアップなどによる演出で来訪者をひきつける景観を形成



湧水公園での夏のライトアップ

⑤ 既存の体験の場や機会とのつなぎあわせ

市内には養魚施設も多く釣り堀が散在します。また、体験施設も各所にありプログラムが用意されています。

平成24年には、全国水の里の旅プランコンテストでは、万水川一帯を活かしたガイドウォークの案が日帰り部門で入賞しました（提案者：安曇野案内人倶楽部）。

①～④にあげた楽しみ方以外にも、様々な楽しみがありますので、歩いてめぐるときに、以下のような楽しみもあわせて案内できると効果的です。

- 釣りの楽しみ
- ガラス工房でマイカップ製作→名水めぐり
- 宿泊施設等で提供する既存プログラムと歩く楽しみとの融合
 - 例：ビレッジ安曇野
 - ・わさびの花摘み等のふるさと体験ツアーの提供
 - ・武蔵野市の子供向け民泊
 - 例：ほりでーゆー 農業体験ツアー
- 水の里の旅プラン入賞の散策コースと食提供の組み合わせ



おひさまロケ地の散策



ビレッジ安曇野・安曇野の里一帯での体験プログラムの一例

⑥ まちなかでの賑わいの創出

旧千国街道沿の古い町並みの中に残る空き店舗などを有効に活用し、田園とは異なるまちなかの楽しみや賑わいを提供することも重要な取り組みです。

- チャレンジショップの募集と運営
- 使われていない蔵の活用



あめ市・ウォークラリーの開催の様子

5 情報の共有と発信

取り組み5. 情報の共有と発信

地域の魅力やその成り立ちについては、市民が個々に持っている情報がたくさんあります。これを皆さんの理解のもとで集めて蓄積することは、この取り組みの基盤をしっかりとしたものとするうえで重要です。さらにこれらを共有し、発達した通信技術を有効に活用して発信していくしくみが必要です。

① 情報を集めて共有・アレンジする体制の構築

様々な情報を集積し、関係者で共有し交換するとともに、時の話題なども含め得られた情報をアレンジし、様々な取り組みをマッチングする作業を継続的に行う体制が必要になります。

- 地域資源に関する情報収集活動の継続
- 関連する取り組みや情報集積

② 取り組み周知のための発信の一元化

本計画に関する様々な取り組み実践の情報をできるだけ1箇所に集約して、迅速に発信できるしくみを設けることが必要です。

- OHP、FaceBook等の活用
- 観光協会による観光情報の一元化 等

③ 滞留拠点のインフォメーションセンターとしての機能強化

滞留拠点となる施設は、安曇野をゆったりとした時間のなかで過ごすスタート地点であることから、情報発信・案内の機能を充実させていくことも重要です。

- ①のマークで情報案内の拠点であることを明示
- 安曇野案内に関するスタッフへの情報提供の充実 等

④ 情報集積拠点・専門的な支援体制の確保 (全市を対象とする博物館的施設の確保)

本プロジェクトの4ページに示したフィールドミュージアムという視点にたつと、博物館はその活動拠点になり得ます。また、資料の根拠を求める場所としても博物館が重要になります。

学芸員活動が充実し、様々な資料が集約されている博物館があれば、この計画でイメージする活動もより円滑に進むと考えられます。

したがって、市民活動と博物館とのつながりをより充実、強化する工夫を講じていくことは重要です。

市内の郷土資料を集約し、自然や歴史文化を学ぶことができる拠点を整備していくことが必要です。

滞留拠点としての機能があり情報発信等も期待できる施設例

ピレッジ安曇野・安曇野の里
大王わさび農場
穂高総合支所・穂高神社
道の駅
義民館
Vif 穂高
あやめ公園
廃線敷駐車場



安曇野わさび今昔ものがたり
(豊科郷土博物館企画展示より)



⑤ 印象的な手法を駆使した発信

良好な景観を各所で望める安曇野では、写真を活かした発信は、市民や来訪者が歩いてみようとすの思いを高めていくうえで、効果的な手法となります。

以下に例示する多様な手法により、ゆっくり移動するときに見えるものや新たな発見に対して、興味をかきたてる情報発信を研究していくことが必要です。

- いいところ発信の方法の工夫
 - みどころ写真の羅列だけでなく多様な方法で
(例: 印象的なキャッチフレーズとセットのポスター)
- 地域のみどころや季節の情報のカレンダー・マップ化して発信
- 時代のニーズに応じたパンフレットなどの改訂・更新
例) ウォーキングマップ刷り直しの際に健康づくり案内を含むマップに更新
- 市観光協会サイトで位置情報付の画像を公開 (H25～)



印象に残るフレーズをポスターにしてPR

⑥ 様々な情報通信技術(ICT)を活用した発信

個人所有の端末機器類の機能が、日々発展・変化している状況を十分に踏まえ、高度化・多様化するICT技術を有効に活用した情報発信を進めることが重要です。

- QRコードを用いた情報発信
- スマートフォン対応の情報発信の研究
- 安曇野百選プロジェクトによる景観投稿サイトの有効活用 (情報収集源として)
- 市観光協会によるフェイスブックによる情報発信 (H25～)

⑦ 発信内容の統一性・一貫性の確保

情報発信、活動のなかに統一感・一貫性を持たせることも、市民の意識、認識を高めるうえで重要です。本計画の取り組みが徐々に広がってきた段階で、例示するような手法の導入が有効と考えられます。

- インフォメーションの役割をもつ施設には統一マークを使用するなどして、市民にも来訪者にもわかりやすい施設案内
- 共通ロゴ・サインの開発や関連施設の統一名称の設定 (たとえば、北アルプス山麓フィールドミュージアム、安曇野まるごと博物館)
- 本プロジェクトを印象的づけるキャッチフレーズの設定



駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムのQRコードを使った案内マップ